



2021年2月12日

各 位

会 社 名 インパクトホールディングス株式会社
 代 表 者 代表取締役社長 福井 康夫
 (コード番号：6067 東証マザーズ)
 問合せ先 代表取締役副社長 寒河江 清人
 (TEL. 03-5464-8321)

2020年12月期通期連結業績の予想値及び前期実績との差異に関するお知らせ

本日公表の2020年12月期の連結業績において、前期実績に対して差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2020年12月期通期連結業績と前期実績との差異
 (2020年1月1日～2020年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (2019年12月期)(A)	百万円 7,909	百万円 514	百万円 △306	百万円 △1,581	円銭 △288.62
当期実績(B)	11,074	1,029	28	△187	△30.08
増減値(B-A)	3,165	515	335	1,393	—
増減率(%)	40.0	100.2	—	—	—
前回発表予想 (2020年11月13日公表)(C)	10,000	1,000	未定	未定	未定
増減値(B-C)	1,074	29	—	—	—
増減率(%)	10.7	3.0	—	—	—

2. 差異の理由

当期業績については、HRソリューション事業において、試食・試飲販売員派遣(マネキン)事業は落ち込んだものの、既存顧客に対して販促ツール製作、物流、ラウンダーサービス等のグループソリューションのクロスセル推進や店舗DBを活用した効率的かつ効果的な販促施策提案により受注件数が増加し、IoTソリューション事業においては、高付加価値商材であるオンラインサイネージやカスタマイズサイネージの大口受注により過去最高益を更新したことから、前期実績及び予想値に対し売上高及び営業利益の大幅な増収増益となりました。しかしながら、2月12日付「(連結)持分法投資損失及び(個別)関係会社株式評価損の計上に関するお知らせ」で記載のとおり、インドにおけるコンビニエンスストア事業において共同出資により設立した持分法投資関連会社であるCoffee Day Consultancy Services Private Limitedに対する投資持分簿価相当額である917百万円を営業外費用として持分法投資損失により計上したことにより2020年12月期の経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益が大幅に毀損いたしました。HRソリューション事業及びIoTソリューション事業の業績が好調で、売上高及び営業利益が前期比大幅増収増益となったことから、営業外費用に持分法投資損失を計上後の経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益についても前期比大幅改善となりました。

以 上